

巻頭言：図書館司書は生成 AI やネットの利用方法のコンシェルジュとしても優れているのではないかと・・・	1
特集：図書館総合展	
「第25回 図書館総合展 2023」ブース出展	2
「第25回 図書館総合展 2023」フォーラム	3
連載：わたしのイチオシ 横浜市中図書館 ～文部科学大臣表彰を受賞して～	4

図書館司書は生成 AI やネットの利用方法のコンシェルジュとしても優れているのではないかと？

神奈川県図書館協会副会長（相模女子大学附属図書館長） 田中 啓之

昨年4月より神奈川県図書館協会副会長に就任しました相模女子大学附属図書館長の田中啓之と申します。

専門は公共政策で、例えば、ITが図書館サービスに及ぼす影響、大規模な市における図書館の配置のあり方（複数館の設置場所とそれぞれの規模）、近隣の自治体図書館の相互利用のあり方、指定管理者制度などに関心を持っています。

昨年10月28日、NHKの「図書館名探偵の事件簿」という番組を視聴しました。番組では、図書館司書が利用者からの相談にどのように応じているのかが取り上げられており、特に印象的であったのは、蒲郡市立図書館での6歳の男の子の「魔法の本はありますか？」との相談でした。司書は、子どもと一緒に館内を歩き、「これはどうかな？」と1冊ずつ示していました。子どもは「魔法を使うためには修行が必要」との内容が書かれていた本を選び、それを読んで、自宅で空を飛ぶ練習に励んだそうです。

私は、この司書が「教育のコツ」を知っていると感じました。相談者の興味を生かし、行動に結びつけ、気づきを促す形で対応しています。

昨年末から、生成AIが注目を集めています。教育分野では、「うまく使えば学修効率を高められるが逆もあり得る」、「回答の正誤判断には本人の判断力が必要」と言われています。一言で言えば、「本人の使いこなす能力が必要」ということです。

私は、「図書館司書は、生成AIの利用方法についての相談にも的確に応じられるのではないかと？」と考えています。具体的な事例において、「生成AIを使って情報をどう集めるか」だけでなく、「本人の能力を高めるために生成AIをどう使うべきか?」、「生成AIの回答の正誤の判断はどのようにするのか?」、「ネット上の資料と図書資料はどのように併用すべきか?」などについてもアドバイスできるでしょう。

神奈川県図書館協会は、図書館活動の振興と利用者サービス向上等のため、様々な活動を展開してきております。ITの進歩により、図書館は新たな可能性と課題に直面しています。

このような環境変化において、本協会が、引き続き重要な役割を果たせるよう、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

特集：図書館総合展 1

「第 25 回 図書館総合展 2023」ブース出展

● 4 年振りの実地開催

今秋で 25 回目を迎えた図書館総合展。神奈川県図書館協会はフォーラム会場での講演会やブース会場での広報活動に例年参加してきましたが、2019 年の実地開催を最後に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン上での参加となっていました。4 年ぶりにパシフィコ横浜での開催が決まり、広報委員会では会場のブース展示と WEB 版のブースページに出展して広報を行うことになりました。

ブース会場は 10 月 24 日（火曜日）25 日（水曜日）の 2 日間、WEB 版は 10 月 26 日（木曜日）から 11 月 15 日（水曜日）まで実施しました。

● ブース展示

図書館総合展でどう協会をアピールしていくか、広報委員会で会議を重ねました。

協会について知っていただくスライド映像とポスターを掲示し、加盟館が一覧になったリーフレット「神奈川の図書館一覧」を配布、アンケートを実施して回答していただいた方にオリジナルのクリアファイルをプレゼントするなどが決まりました。

コロナ禍を経て実地のノウハウを知る職員も少なく、準備に手間取りながらも加盟館の皆様にご協力いただき、なんとか形にして当日を迎えることが出来ました。会場は以前よりもコンパクトになりましたが、2 日間の来場は 8 千人を超え、現場は大変な賑わいでした。



ブース会場の様子

アンケートは 2 日間で 204 名の方にご回答いただきました。「地元の図書館の統計が見て面白かったです」など嬉しいご意見も多くありましたが、「協会を知らなかった」と回答された方は 43%。総合展で少しでも協会の活動を知っていただけたら幸いです。

アンケートの結果は委員会で共有し、来年の総合展や広報活動に活かしていきます。

● 神奈川の図書館一覧とノベルティ

総合展で配布するリーフレットは、2021 年度に発行したものを元に、情報とデザインを一新しました。協会のマークをあしらったシンプルなクリアファイルは、ブースで足を留めてもらうきっかけにもなり人気でした。会員の皆様にはクリアファイルと共に順次発送いたします。



「神奈川の図書館一覧」とクリアファイル

● WEB 版ブースページ

<https://www.libraryfair.jp/booth/2023/272>



図書館総合展 WEB 版ブースページ

遠方や会場に来ることが難しい方にもご覧いただける WEB 版のブースページを今年も作成しました。各図書館のデジタルアーカイブや、最新の取り組みについて、リンクからご覧いただけます。現在もアーカイブとして公開中です。

広報委員会では、これからもより多くの方が図書館を身近に感じていただけるような広報計画を考えてまいります。

(県立図書館 広報委員会)

特集：図書館総合展2

「第25回 図書館総合展2023」フォーラム

「共に体験と感動をユニバーサル絵本ライブラリーUniLeafの活動について」

パシフィコ横浜で行われた図書館総合展に参加し、10月24日（火曜日）に展示ホール2階第3会場にて講演会を開催しました。

2019（令和元）年6月「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（「読書バリアフリー法」）が施行されました。この法律は障害の有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるように、さまざまな方が利用しやすい形式で本にアクセスできることを目指しています。公共図書館においてバリアフリーな読書環境は、図書館の職員だけでなくボランティアや地域の方々によって支えられ、点字資料、音声資料、対面朗読サービスなどが提供されています。

さまざまな方が利用しやすい形式の絵本の一つが「ユニバーサル絵本」です。

本研修は、10年以上にわたってユニバーサル絵本の作成や、県立高校での授業や部活動などを通じた普及活動を行っている『ユニバーサル絵本ライブラリーUniLeaf』代表大下利栄子氏に、「読書バリアフリー」だけにとどまらない「ユニバーサルな体験」について講演をいただきました。参加者は67名、会場内ほぼ満席になったの開催となりました。

紹介されたユニバーサル絵本ライブラリーUniLeaf活動の一部は、次のようなものでした。

①ユニバーサルデザイン絵本について

「ユニバーサル絵本」とは本文の文章を点字にした透明シートを、見開きごとに挟み込んだ絵本で、目の見える子どもと見えない子どもが一緒に使い、読書体験を共有することができます。

この英国発祥のユニバーサルデザイン絵本を、日本初導入。15年間で1,200冊超を手作りし、全国に定期貸出しています。高校生や市民に絵本作成講座も開催。「分かち合える場づくりは貴重な取り組み」と2019年度内閣総理大臣表彰を受賞しました。

②歴史的建造物のミニチュアブロンズ模型について

鎌倉を代表する建長寺で仏殿ミニチュアブロンズ

模型を作ることを進めています。誰の目にも触れるよう、境内の屋外、仏殿の真ん前に設置します。頑丈で壊れないようにブロンズ製にします。誰でも触ってよい、「さわる」ための模型です。

目が見えない人には、さわって建物の形が分かる喜びを、目が見える人には全体像や鳥瞰図、高所や細部もよくわかり新しい視点の発見を。模型を囲み、場を分かち合い、お互いに気づき興味を持つきっかけになります。

誰もが同じ場所・同じ時間に・同じ感動を分かち合える世界をめざして。共に生きる社会の具体的な一歩になります。

講演最後の体験の時間は、参加者がユニバーサルデザイン絵本や模型に触れたり、点字タイプライターを実際に打ってみました。参加者が、ユニバーサル絵本などを手にしながら講師に質問する輪は幾重にもなり、また点字タイプライター打ちの順番を待つ列は閉場時間まで途切れませんでした。

講師が身近な実体験から受けた感動を交えた講演は、会場を一体化させ、講師の活動に対する関心の高まりを感じました。

“障害の有無に関わらず みんないっしょに”

本研修は、公共図書館におけるバリアフリーとはなにかということ、新しい視点であらためて考えるきっかけとなる貴重なものとなりました。



（神奈川県図書館協会 研修委員会）

連載 わたしのイチオシ

横浜市中図書館 ～文部科学大臣表彰を受賞して～

令和5年4月、横浜市中図書館は「令和5年度子供の読書活動優秀実践校・図書館」として文部科学大臣表彰を受賞しました。横浜市からは寺尾小学校（鶴見区）、本牧南小学校（中区）と同時受賞です。

これは、親しみやすく利用しやすい図書館となるように、司書だけでなく事務担当なども含めた職員一丸となった取組に加え、日頃から当館をご利用して下さるお客様、私どもとともに図書館運営を支えて下さるボランティアの皆様のご支援の賜物であり心から感謝しています。

当館は平成元年に開館した2階建て延べ床面積約1,500㎡、蔵書数約112,000冊の横浜市立図書館の中では比較的小規模なものとなっています。場所は横浜の中心部である中区にありながらも鉄道の駅からはやや離れた位置にあります。しかし、地域の皆様の活動拠点である地区センターとの合築で、公園に隣接しており天気の良い日には多くの子どもたちでにぎわう一面に立地しています。

そのような環境の中、適切な選書、レファレンスサービスという図書館の基本の上に、子どもたちの読書活動推進を目的に、地域の皆様とともに四つの取組を進めてきました。

1つ目は読み聞かせボランティアグループとの連携です。ボランティアの皆様や職員による子ども向けのおはなし会を毎月5、6回行うとともに、ストーリーテリングを楽しむ「大人のためのおはなし会」も開催しました。



また、毎月1回新刊絵本の紹介や意見交換などを行う定例会を実施しており、その中で出たご意見に当館の司書も新たな気づきを得るなど、ボランティアの皆様と職員双方にとって有益な機会となっています。

2つ目は11月を中心に、団体・施設・企業などを行う「なか区ブックフェスタ」です。これは、区内の施設や企業が、読書関連イベントを同時多発的に行い中区全体で「読書の秋」を盛り上げようというものです。活動の中心はボランティアの皆様ですが、区役所と一緒に当館も事務局の一部を担うとともに、2020年には動画で、昨年からはおすすめの本をまとめた「本の福袋」で参加しています。

3つ目は環境団体との連携事業です。「森の中のプレイパーク」では、子どもたちが隣接する公園で自然観察をした後、当館の資料を使って調べ物をし、図書館の利用方法を学びました。さらに、夏休み期間には環境NPOの方をお招きし、ソーラーパネルを使った工作を通じ、環境問題に目を向け、さらに当館の資料で知識を深める取組も行いました。

4つ目は学校連携事業です。より多くの子どもたちに図書館と親しんでもらうため、図書館見学や職業体験を受け入れています。加えて、職員が学校に出向き、読み聞かせボランティアの皆様を対象とした講座を行うなど、学校での読書活動を積極的にサポートしています。

このように、子どもたちが将来図書館のファンになり、読書が身近になるように促す取組が今回の受賞につながったものと感じています。

当館は交通アクセスに優れているとは言い難い立地です。しかし、だからこそ地域の皆様のご期待は大きいと感じますし、力強いご支援もいただいています。職員はそのご期待に応えるべく今回の受賞を励みに今後も尽力していきます。

（横浜市中図書館長 塗師敏男）